

令和 6 年 4 月 19 日

(※受付番号)

教 育 長 様

研究コース
A グループ研究A
校園コード (代表者校園の市費コード)
511001

代表者	校 園 名 :	大阪市立堀川小学校
	校園長名 :	衣笠 博政
	電 話 :	6358-3336
	事務職員名 :	西 麗美
申請者	校 園 名 :	大阪市立堀川小学校
	職名・名前 :	校長・衣笠 博政
	電 話 :	6358-3336

令和6年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	継続研究 (2年目)
2	研究テーマ	知・徳・体のバランスのとれた児童の育成 － 問い・対話・振り返りを重視した授業改善 －			
3	研究目的	テーマに合致した目的を項立てして記載してください。 1. 単元始での問い、展開での対話、単元末の振り返りを重視することで、見通しを持ち主体的に学びに向かう児童を育成する。 2. 系統を意識することで、基礎・基本を定着し、応用的な力を育成する。 3. 本校の研究の積み重ねを活用し、「教えること」「考えさせること」に重点を置き体力の向上を図る。 4. 学習中の言葉に着目し、「学習の言葉：学習用語」「関わりの言葉：支える言葉、関わる言葉」を豊かにし協働する学びを研究する。 5. 教職員の学びの場を保障し、授業観、指導観、児童観をアップデートし、学校力を向上させる。			
4	研究内容	(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する 教育基本法の「知徳体のバランスのとれた質の高い教育」は全ての教育の基本となる考え方である。誰一人残さず、意欲を高め学びを深めるためにも、この3つのバランスのとれた研究の必要性を感じた。教員の学ぶ場の保障が児童の育成や学校力に大きく関わるため、以下のように研究内容を整理した。 【授業づくりの変革】 児童が受け身の授業から脱却し、児童主体となる学びへの授業改善を以下の3点に注力し実行する。 ・単元始の問い、見通し、方向性を児童と共有し学びのベクトルを合わせる。 ・集団で学ぶよさである対話、協働に焦点をあて互いに関わり合う学びを展開する。 ・単元末に、学習内容と学び方、関わり合いを振り返る。 【本校の研究の蓄積を活用】 ・国語科の研究を5年、体育科の研究を2年重ねてきた。知徳体をバランスよく育成するために、知：国語、体：体育を中心に研究する。そして、今年度は徳にも力を入れ、集団の中での友だちとの関わりを大切にす。学習の言葉：教科の用語と関わりの言葉：支える言葉、関わる言葉を指導者が意識することで、あたたかい学びとなるだろう。 【理論研修会、教材分析研修会、実技研修会、集団づくり研修会の充実】 ・教員の学ぶ場を保障する。知の代表である国語の教材分析研究会、体の代表である体育の実技研修会、徳の集団づくり研修会を熟達者や大学教員から直接学ぶことで、全職員の授業像、児童像のゴールイメージが共有化される。教員の豊かな学びは、学校づくりの柱となる。この学びの場は、可能な限り公開していきたい。 【児童の学びの変容を可視化】 ・知徳体のバランスよい育成は、児童の学びを変容させ学校生活にも影響を与えていると考えている。検証するために、学力調査の分析に加え、学校満足度や集団の結びつき調査をすることで多方面での成長を可視化できるよう検証方法を工夫する。			
		(2)継続研究「2年目」 ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する 【成果】年間を通して知・徳・体のバランスよく研究を進められたことにより、アンケートで教員の指導力向上、児童の学力向上・仲間意識の向上が明らかになった。また、児童が自ら学ぶ姿へ変容を見せつつある。 【課題】大規模校であるため教員が自分ごととなる研究の推進をする。児童の問い・振り返りを充実させる。 上記の成果と課題から、(1)の研究内容を引き継ぎながら、重点項目として次の点を挙げる。 【授業づくりの変革】問いの種類を整理し、自ら学びにアクセルする児童の育成を図る。振り返りを充実させ学習内容と学習方法を外化する。【研修の充実】教員の学びをつなげ、教員の学びにも問い・対話・振り返りを意識し、研究を深められる手立てを工夫する。【児童の学びの変容】アンケート項目に学びが好き・できる・分かるを追記し、多面的に児童の姿を把握できるようにする。			
		(3)継続研究「3年目」			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4 月 【研究企画会】 研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討 【研究推進委員会①】 ・昨年度までの成果と課題をふまえ、研究内容の焦点化 ・先行研究をもとに年間計画を立案 ・児童アンケート、教員アンケートを作成 【研究全体会・全体研修会①】 研究内容と年間計画の共通理解を図る。 【研究推進委員会②】 児童アンケート・教員アンケートの実施・分析</p> <p>5 月 【全体研修会②】 「国語科 教材分析研究会」教材分析の方法を学ぶ 【全体研修会③理論研修会（教育改革）】 講師 京都大学 准教授 石井英真先生 【授業研究会①3年・講演】（指導案検討会・提案授業・研究協議会）国語科</p> <p>6 月 【授業研究会②6年・講演】（指導案検討会・研究授業・研究協議会）国語科</p> <p>7 月 【全体研修会④知：教材分析】 講師招聘研修 【全体研修会⑤徳：集団づくり】 講師 沖本和子先生 【全体研修会⑥体：実技研修】 講師招聘研修</p> <p>8 月 【先進的研究校 公開研究会 参加】 【京都大学 研究会 参加】</p> <p>9 月 【全体研修会⑥伝達研修会】 参加者がレポートを作成し学びを共有 【がんばる先生支援 研究発表会】 公開授業・研究協議 指導助言 関西学院大学 教授 佐藤真先生 【授業研究会③5年・講演】（指導案検討会・研究授業・研究協議会）国語科</p> <p>10 月 【授業研究会④2年・講演】（指導案検討会・研究授業・研究協議会）体育科 【全体研修会⑦徳：ピアサポート】（公開授業・討議会・研修会）</p> <p>11 月 【授業研究会⑤1年・講演】（指導案検討会・研究授業・研究協議会）国語科</p> <p>12 月 【授業研究会⑥4年・講演】（指導案検討会・研究授業・研究協議会）体育科 【研究推進委員会③】 児童アンケート、保護者アンケートの実施・分析</p> <p>1 月 【研究推進委員会④】 区教員研究発表会に向けて2年間のまとめ作成 【区教育研究発表会 取り組み報告】 指導助言 総合教育センター田窪豊先生</p> <p>2 月 【先進的研究校 公開研究会 参加】 【研究推進委員会⑤】 ・学力経年調査の結果分析 ・教員アンケートの実施・分析 ・がんばる先生支援報告書作成・提出</p> <p>3 月 【研究推進委員会⑥】 研究のまとめ作成 【研究全体会・全体研修会⑧】 次年度へむけて、本年度の成果と課題の共通理解</p> <p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組を記載してください。</p> <p>・理論研修会、研究授業への講師招聘 ・全国の研究会への参加、取組報告 ・実技研修会、教材分析研究会への講師招聘</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 変更しない。 <input checked="" type="checkbox"/> 変更する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>理由 【児童】 学びが好き・できる・分かるを追記し、多面的に児童の姿を把握できるようにする。【教員】 振り返りの記述を積み重ねることが主体的な研究につながったかを検証する。</p> </div> <p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>」および、「<u>教員の資質や指導力の向上</u>」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに<input checked="" type="checkbox"/>を入れてください）</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>問いを持ち学びを続ける授業改善により、主体的に学ぶ姿勢を育成できる。単元末の振り返りにより、他の学びにつながる気づきを促すことで、学びの質が向上する。新しい学びをする際、既習の学びを振り返り活用する姿が見られる。「次何をするの？」という児童の声から「次はこれをしたい」という児童の声へ変わっていく。学びの言葉や振り返りに授業の内容が表現されていく。</p> <p>《検証方法》</p> <p>「知識・技能」「思考・判断・表現」の伸びに加え、「主体的に学習に取り組む態度」の伸びを検証する。児童アンケートの「学習は先生が教えてくれるもの」の回答割合が減り、「学習は自分で学んでいくもの」の回答割合が増える。学びの言葉や振り返りを検証することで、授業を振り返ることができる。そして、学びが好き・できる・分かるを追記し、児童の学びへの捉え方、関わり方を検証する。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>関わり合いの言葉を大切にしているので、学びの中で互いに支え合い、関わり合う学級風土ができる。集団の良さを教員も児童も感じることで、豊かな学びを展開することができる。一人も残さない学びは、関わり合いの言葉が大きく影響する。得意なことも苦手なこともチャレンジする意欲を育成し、学びに対して前向きな児童を育成する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>授業の満足度が学級の満足度、学校満足度につながっていると仮説を立てたため、児童アンケートの「学級の安心感」「苦手なことにもチャレンジしようと思う」「友だちが支えてくれた」の項目の肯定的割合が8割以上となる。児童の学びを近くで見ている保護者へアンケートから、児童の学びへの満足度が8割以上となる。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果3】</p> <div><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</div> <p>教員の学ぶ場を知徳体バランスよく保障することで、学習指導力と学級経営力が向上する。このことは、児童の満足度や学級での居心地の良さにつながる。また、公開授業研究会で実際に授業を見た参加者が満足し、取組内容を実践することで本研究が広まっていくこととなる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>教員アンケートから「授業づくり」「学級経営」に関する項目の肯定的割合が8割以上となる。児童アンケートの「学校満足度」「学級満足度」「集団の結びつき」の項目の肯定的割合が8割以上となる。公開授業研究会に参加した教員アンケートの満足度が8割を超える。本校の取り組みを実践する割合を8割以上となる。</p> <p>【見込まれる成果4】</p> <div><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</div> <p>本校は大規模校であるため、教員数や経験年数、家庭事情もさまざまである。その中で、校内研究として大学教員からの理論研修、先進的研究校からの教材分析研修、実技研修、集団づくり研修を共有することで、授業観、指導観、児童観をアップデートし、学校で共通理解できる。このことは、学校力向上に大きな役割を果たす。教員のめざす授業イメージが共有化でき、教員が満足して授業づくりに打ち込むことができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>教員アンケートを実施し、「授業づくりの悩みが改善した」「研究の内容が実践につながった」の肯定的割合が8割を超える。学校満足アンケートを実施し、満足度が8割を超える。その理由をインタビュー調査することで、肯定的割合の要因を分析する。また、振り返りの記述を積み重ねる手立ての効果をアンケートとインタビューから検証し、振り返りの記述内容から研究の深まりを確認する。</p>						
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和7年2月21日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table><tr><td>日程</td><td>令和 6 年 9 月 18 日</td><td>場所</td><td>堀川小学校</td></tr></table> <p>◆waku².com-<u>bee</u>掲載による共有【必須】</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table><tr><td>日程</td><td>令和 7 年 2 月 21 日</td></tr></table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>令和7年1月 北区教員研究発表会 取組報告</p>	日程	令和 6 年 9 月 18 日	場所	堀川小学校	日程	令和 7 年 2 月 21 日
日程	令和 6 年 9 月 18 日	場所	堀川小学校					
日程	令和 7 年 2 月 21 日							
8	代表校園長のコメント	<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>上記にも記載したが、本校は大規模校であり教員の置かれた立場もさまざまである。その中で、各教員が学校運営、授業づくり、学級経営を精一杯推進している。それを支えるためにも、教員が学びアップデートできる研修、学校として共通した像を具体的に持てる授業、先進的研究校へ学びに行く機会を保証したい。教員の学びは、直接的にも間接的にも児童へ還元される。この好循環が学校力を向上させる柱となることと信じている。ぜひ、この研究を推進させていただきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>教育改革の波が押し寄せている。だが学校に求められている改革が山積し、教員が疲弊することを防ぎたい。そこで改めて、教育基本法が謳う知徳体に焦点を当て、人格の形成の根幹を問い直すこととした。学びは誰のものかを問い、児童が学びたいと思う授業へ変革する。学校に集う意味を考え、集団で取り組む素晴らしさを問い直す。人生100年時代の今、生涯体育が求められている。体育への向き合い方を問い直す。根幹を問い直し、令和の現代に求められる教育とは何か、本校の児童に求められている教育とは何かを問い続けることで、新しい教育が見えつつある。今年度も、意欲ある本校の教職員と学び合い、その成果を大阪市に広めたい。ぜひ、本研究への助成をお願いしたい。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						